

Y-AIR Case Study Part 2, London/ Tokyo Y-AIR Exchange Program

London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2015

スタジオ制作と海外創作体験の可能性



Youkobo Art Space, Tokyo



目次

はじめに	村田 達彦 (遊工房アートスペース)	2
寄稿		
London/Tokyo exchange programme Report	グレアム・エラード (セントラル・セント・マーチンズ)	3
日英レジデンス交換プロジェクトの感想	O JUN (東京藝術大学)	4
活動概要		
1. 2国間での若手作家のスタジオ相互交換の試み		6
2. 参加者の意見から		8
3. 参加者の紹介		10
4. Program Over View 2015		11
5. Schedule Overview 2015		13
参考		
- CSM Associate Studio Program (ロンドン)		14
- 遊工房アートスペース (東京)		16
- Microresidence Network		17

BACK NUMBER http://www.youkobo.co.jp/microresidence/index_en.html

MICRORESICENCE! 2015, The Case Examples of Y-AIR in Japan vol.1

MICRORESIDENCE! 2014, The possibilities of Y-AIR in a trial between Tokyo and London

はじめに

村田 達彦（共同代表, Youkobo Art Space）

AIR は、アーティストの滞在を伴う活動自体を指すが、転じて、アーティストの創作の場と機会を提供する事業として広く国内外に理解されていると思う。活動ジャンル、滞在期間、国籍、宗派、老若男女、家族構成などの AIR 利用側のニーズ、滞在や創作の施設や環境など創作・研究活動のためのスペースや機材の利用などの AIR 供給側の条件など、様々な組合せから、それぞれの AIR 事業が成り立っている。多様な、AIR のこと、作家のそして研究者の創作と探求の場について考えると、多様な形のスタジオ、その中に AIR も含まれるとも考えられる。

遊工房アートスペースは、この多様な AIR に関する調査・研究の中から、AIR と美術大学の協働の可能性についての実践を通じた活動として、以前より、美大への出張講演活動を進めてきた。AIR プログラムや、滞在作家の活動、考え方、生き様、文化背景、異文化、多様性の紹介等。

2012 年、「マイクロレジデンス」の発信（注 1）と共に、「マイクロとマクロの可能性、AIR と美大の協働」としての一連の活動を、Y-AIR（AIR for Young）構想として打上げた。①AIR でのインターン受入（AIR プログラム、滞在作家活動支援など）、②AIR 滞在者の講演やワークショップ開催、③さらにその国際間の相互乗入れの可能性の模索など。

一方、作家そして、研究者の創作と探求の場としての空間（スペース）について考えると、作家それぞれのニーズから多様なスタジオ（工房、アトリエ）の存在がある。ここでは、作家を目指し高等教育機関での創作空間での研鑽を終えた、卒業後の新たな作家活動のためのスタジオについて焦点を当てた。この調査・研究から、ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーティン校（CSM）が、地元をベースに活動するアーティストの為のスタジオ・スペース運営組織の一つである、Acme Studios との間で 2013 年から始めた、CSM 卒業間もない若手作家への支援プログラム ASP がある。

本冊子は、アーティストの創作と滞在の館としての AIR をもっと若手が体験できる仕組みづくりを目指した Y-AIR 構想の基に、東京とロンドンの間で 2015 年から始めた活動を中心に報告している。

ここに紹介するプログラムは、Mark Dunhill と Tamiko O'Brien の両氏の協力で始まったもので、簡単にその経緯を述べる。彼らは、遊工房のアーティスト・イン・レジデンス（AIR）2014 年招へい計画を快諾してくれたロンドンを活動ベースとする彫刻家ユニットであり、共に美大の教育者でもある。2013 年の滞在活動計画の事前調整段階で、久々の遊工房での彫刻家ユニットとしての独自活動計画と共に、ロンドン教育界での豊かな経験を生かした若手作家支援のための活動も滞在期間中に実施することになり、美術大学での講演とワークショップの開催、さらに両都市間相互の若手作家交換プログラムの可能性検討が含まれた。2014 年、春から夏の 4 か月間の遊工房滞在中、作家ユニットとしての固有活動の支援に藝大生インターン採用と共に、藝大専攻科を横断した院生向けの 1 週間の創作ワークショップ授業が実施された。さらに、当方が都内美大（東京藝大ほか）と始めた Y-AIR 活動と、ロンドンでのスタジオ活動の若手支援活動との相互乗入れ計画として、ロンドン・東京間の若手作家交換、「London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2015」の実現につながるようになった。ロンドン側は、CSM 校・Graham Ellard 教授の推進する、CSM 校新規卒業生向け活動支援プログラム、ASP, Associate Studio Program との交換となった。

* 注 1 Microresidencies: <http://microresidence.net/about-mrn/>

* 注 2 ASP, Associate Studio Program: <http://www.acme.org.uk/residencies/associatestudio>

London-Tokyo exchange programme Report

グレアム・エラード（セントラル・セント・マーチンズ 教授）



2015年で実施された遊工房とアクメ/CSM間の交流プログラムは、参加した4人の若手作家にとって非常に貴重な経験であった。各都市で過ごした時間が明らかに新しいアイデアや実践、場所に接し、自身と出会った人の作品制作について持った思い込みに挑戦させた。この機会を可能にした遊工房アートスペース：達彦・弘子村田様に感謝申し上げます。

遊工房が提供したサポートと心遣いが素晴らしく、クリスさんとリディアさんにとって、様々な文化や場所へのアクセス、洞察、知識等提供されたものが大いに役立った。彼らの制作への影響と東京で作った作品から、この経験の価値が明快になっている。

一方、2015年のプログラムについて書かれた参加アーティストの報告を伺えると、経験が貴重でありながらも、ロンドンで滞在した作家と東京で滞在した作家の経験の違いが明らかである。

始めからこの違いが明確であったが、多少企画側の非現実的な期待がありながら進めて、結果的にその違いが東京の作家のコメントに目立った。根本的な違いとして、ロンドン側作家が美大から卒業して2年間自立していること（それに伴う時間の制限と仕事の調整困難）に対し、東京側の参加作家が修士学生（それに伴う大学による構造とコミュニティの背景）であることだ。

遊工房が提供するサポートや構造化されたイベントは、ASPとして対応不能で、その代わりにプログラムの参加への体験に加えて、東京の参加作家のために、スタッフやロンドンを拠点にしている独立している作家との交流を計画した。

東山さんの場合、大学のキャンパスや図書館、学部生の卒業展を案内する他、プログラムに参加していた間、Neil BeloufaとPhilip Laiという作家によるスタジオ訪問が行った。その他、Emma Talbotという作家も1対1形式のスタジオ訪問も行い、久保田サヤというロンドンのCity and Guilds School of Art 研究員に紹介されたことにも繋がった。

小津さんのためにも同じようなミーティングが計画されたが、ロンドンの滞在期間が作家によるスタジオ訪問のスケジュールと一致されずになってしまった。大学のキャンパスと図書館を案内する他、ロンドンを拠点に活動している画家、近藤正勝氏（作家によるASPのスタジオ訪問、Deptfordにある近藤さんのスタジオへ小津さんの訪問）とのミーティングが設定され、CSMの学長と彫刻家であるMark Dunhillとのミーティングも行った。

スタジオ内で、ASPメンバーの一定のコミュニティが存在しないことが、東山さんと小津さんにとって明らかに挑戦であった。ロンドンで生活する苦難のことから、各ASPメンバーの週間スケジュールが複雑であり、その故スタジオで数人の同メンバーに会うことすら稀なことである。これが恐らく、東京とロンドンの2つのグループの経験で、最も明快な違いだと言える。

現在行っているミーティングを通して、2016年度の交流プログラムに向けて、これらの不均衡の解決を目指している。

日英レジデンス交換プロジェクトの感想

O JUN (東京藝術大学, 教授)



2015年5月～7月にかけて、ロンドン芸大・セントラル・セント・マーチンズ校(以降、CSMと表記)の卒業直後の作家支援のためのシェアスタジオ・プログラム(Associate Studio Program、以降ASPと表記)と、東京にあるアーティスト・イン・レジデンス「遊工房」による若手アーティストたちの交換プログラムが行われた。ロンドンからのアーティストは2名リディア・デイビスさんとクリス・アイフォールド氏だ。2人ともCSM校学士を修了した将来が期待されている優秀な若手アーティストたちだ。遊工房から派遣したアーティストは東山詩織(杉戸研究室)と小津航(O JUN研究室)。2人共東京藝術大学油画専攻の現役の大学院生である。それぞれが約6週間に渡り双方のレジデンスに滞在し制作、交流プログラムを行うというものである。遊工房ではロンドンのアーティストは最後に成果展としての展覧会を行った。また双方のアーティストは最初に全員がそれぞれの自製のポートフォリオや画像などを使いイントロダク

ション行った。それを皮切りに遊工房ではこの期間中、並行してギャラリースペースに於いてO JUN研究室の修士、博士、教育研究助手、教員O JUNら全員による様々なワークショップや展示が行われた。

この機会を作って頂いたのはCSM校の教授であるグレアム・エラード氏と遊工房の代表である村田ご夫妻の全面的な協力によるものである。また、昨年、遊工房にレジデンシーアーティストとして来日していたマーク・ダンヒル氏(CSM校美術学部長)、タミコ・オブライエン女史(ロンドン、シティ・アンド・ギルド校学長)による藝大でのワークショップに藝大並びに油画第7研究室の教員、学生が協力参加させて頂いた経緯があり、その継続的交流プログラムとして今回このような交換交流プロジェクトに展開し実現の運びとなったのである。

約3か月間、相手国での生活、アーティストたちとの共同イベント、ワークショップなどに参加しながらその国の文化、アートなどを実際に体験した。それぞれが様々な印象や感想、また手ごたえや実感をそれぞれの国に持ち帰ったことと思う。それらが直ちに自身の制作や表現に反映するとは思ってはいない。幾つかの経験として、また記憶として彼らの五感に沈み、身体に馴染むほどの月日を経てさらに精製されていつの日か作品に変換され得たとしたらこのプロジェクトとそれを体験したアーティストにとってはそれこそが大きな成果と言えよう。とは言いながら、ロンドンの二人のアーティストたちによるそれぞれの成果展は高いクオリティを示す意欲的な作品であった。リディアは東京での日々日常の光景や事物などを配置よくカットアップしたり滑り込ませる映像作品やドローイングを制作し瑞々しいその表現は彼女の感性とセンスを十分に輝かせて私たちを楽しませてくれた。クリスの作品は立体作品であるが、日本のホームセンターなどで見つけたごく見慣れた建築素材や用具を再構成し会場空間も含めて見事な彫刻的表現を成功させた。モノと意味の変換能力に非常な才能を見せた作品であった。また、その見せ方の根底にはユーモアのセンスが光る。非常に将来性を感じさせるアーティストであると印象を持った。



現在、日本では“グローバル化”という新しい考え方や方向性が社会や組織、教育の現場でしきりに言われているが、そのようなダイナミックで活動的な動きを本質的に支え動かす力となるものはやはり誰かが大声で響かせるプロパガンダや号令ではなく、個々の交流、交通の実績であろうと確信している。昨年の交流プログラムから今年にはさらさら新たな交流の形態と流れを試行した。ロンドンのASPでレジデンスを体験してきた2人の日本からのアーティストたちには会期中を通じてメールやスカイプなどで時々の状況を報告してもらった。特に小津は昨年マーク・ダンヒル氏、タミコ・オブライエン女史のインターンとして彼らの制作に協力してもらったことの反映として今回のアクメ滞在に繋がった。

このような継続と展開を可能にしているのは、マイクロレジデンスを標榜し実践している遊工房の熱意と機動性に富んだ行動によるものである。また、遊工房は従来のレジデンスの機能と同時に併せ持つギャラリースペースを連動させて新たな展開の可能性を模索している。その試行として今回の交換プロジェクトと並行して工房内で展開された藝大油画第7研究室を中心とした企画の実行である。私O JUNによるドローイングのワークショップ、これには埼玉大学教育学部の小澤基弘研究室の院生、教授も参加した。また、7研学生たちによるレター交換によってキーワードを指定しての作品制作、またアニメーションの共同制作を行った。これにはLydiaも参加した。また7研学生の赤池龍星は大学外に友人たちとシェアスタジオを借りて制作しているが、会期中にリディアそしてクリス、また7月に遊工房が研究者招聘したロンドン・Acme Studiosのジュリア・ランカスタ氏や村田夫妻も交え、赤池達のスタジオに招待しシェアスタジオの在り方や今後の展開や交流の可能性などについてディスカッションを行っている。

これらの交流の総括として第7研究室展「太郎かアリス」を遊工房アートスペースと藝大の共通工房の二か所を使って開催した。今展はロンドンからのアーティストたちとの交流も制作の中に組み込んで、展覧会参加者全員がそれぞれのドローイングを持つという「ONE BOX ONE PIECE」展を開催した。これは交流実績としての形式あるいは成果物というのではなく、“あなたの証のかけら”を私が生涯持ち続けること、また同時に“わたしの証のかけら”をあなたが持ち続けることをする。距離と時間を越えてさらにそのことの意味が単なる所有を超える価値を見出せるかどうか、今回ロンドン側と遊工房、そして藝大の協力をいただきこのようなことを試みた。

これらささやかな交流プロジェクトの試みが長く継続して実施されるためには相互の理解と協力、そしてなにより資金や助成の確保が必要であることも痛感している。そのための具体的な方法を今後も検討してゆかねばならない。最後に、今回多大なるご協力と支援を頂いたロンドン芸大CSM校、Acme Studios、東京藝大、そして遊工房に深く感謝するものである。

2国間での若手作家のスタジオ相互交換の試み

「AIR体験を若手作家に」というY-AIR (AIR for Young) 構想のもとに、遊工房アートスペースは都内美術系大学に対し、AIRの仕組みとAIR滞在者の活動紹介、ゲストティーチャ派遣、また、学生インターンの受入などの相互往来を実施してきた。このAIRと美術系大学の協働を、国境を越えて試行し、ロンドンと東京の間で始めたのがこのプログラムである。キャリアのまだ少ない若手作家が海外で滞在創作できるプログラムは国内外のAIR全体を見ても、あまり多い状況とは言えない。そうした背景も踏まえ、異文化の中での滞在制作とアーティストとして生きることを考える一歩となる貴重な交換体験であると提案したい。

本プログラムは、両国各2名が6週間ずつ、2015年5月～7月に実施された。(第1期5月1日～6月12日、第2期6月12日～7月31日、各1作家6週間ずつのスワッピングプログラム)参加者の選定は、ロンドン側はASPの1期生8名の中から、日本側は東京藝術大学油画科から、活動計画を基に双方で協議の上、各2名を選抜した。

ロンドンでの活動は、CSMの所管する現地スタジオ運営機関・Acme StudiosのスタジオをASPメンバーらとシェアしつつ、制作やCSM図書館利用を含めた調査・研究を自主的に展開でき、時にはASPが招聘したアーティスト等による批評の機会も得られた。現地アーティストとのコミュニケーションを通して、日本での制作とは異なるプロセスに挑戦するなど、海外での滞在創作の体験から刺激と活力を得た。将来的に海外で活動することを考える機会となったと共に、英語でのコミュニケーションの必要性に改めて気付くきっかけとなったようだ。宿泊施設は、東京へ旅立った参加作家留守となる宿舎で、現地シェアメントとの共同生活となり、ロンドンからの参加作家の住居もスワッピングする形となった。

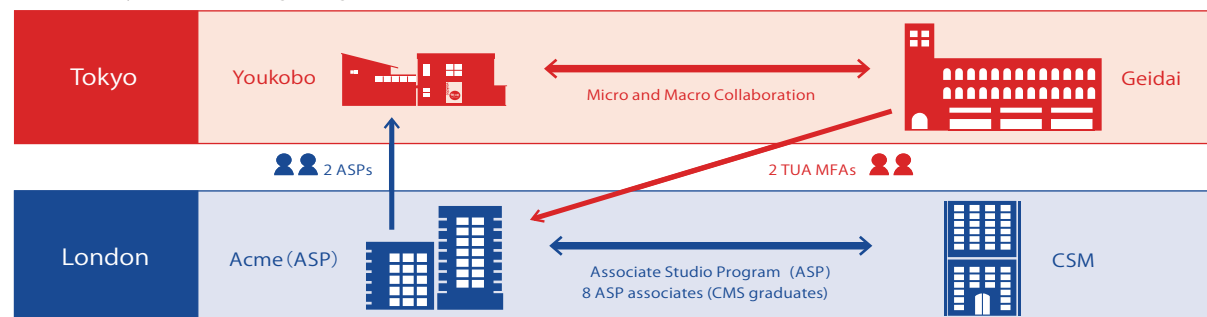
一方東京では、遊工房アートスペースの宿泊施設付のスタジオを中心に、AIRプログラムとして制作、調査・研究、作品発表を展開した。普段シェアスタジオで制作をしている参加者にとっては、初めて自分のスタジオを持ち、個展を開催することができ、アーティストとしての挑戦を異国の地で経験することとなった。また、並行してO JUN研との協働プログラム「太郎かアリスのliquid」への参加が企画され、20名近い学生や教員等との交流を経て、ワークショップや展示会を開催した。また、AIRに同時期滞在している各国アーティストとの交流も自然に生まれる環境にあり、幅広い年代、経験のアーティスト達との出会いは、彼らのネットワークを豊かなものとした。

サポート体勢は、両校の教官はじめ関係者の協力のもとに実施されており、両者共に調査・研究として、キャンパス案内、Studio等のスペース見学や、アートシーン、展示会への参加などが実施された。東京側では、遊工房スタッフの支援、そしてO JUN研よりプログラム進行に関わるインターンが1名指名され、計画・管理として参画した。

経費負担の設定は、ロンドンからの参加者への往復旅費及び滞在制作施設は日本側で準備、日本からの参加者の現地滞在与制作の施設料はロンドン側でそれぞれカバーした。その他、制作材料費、現地交通費、生活費などは共通で各参加者負担とした。

2 国間の交換プログラムとして、シェアスタジオと AIR プログラムという異なる形態（施設や支援体制、プログラムの差異）で実施したことで見えてきた課題、参加者からの貴重なフィードバックなどを踏まえ、持続可能なプログラムとしての展開を検討している。そして日本側では、国際語としての英語によるコミュニケーション機会促進のための体験プログラムとしての意図も改めて捉え直し、課題としたい。

London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2015



UK の作家ユニット、マーク・ダンヒル氏とタミコ・オブライエン氏との 2007 年以来の交流の中から、Y-AIR 構想に匹敵する例として CSM 校の新人作家への支援プログラムの紹介を受け、両都市間の若手作家相互交換（Y-AIR 交換プログラム）の実現として、美大卒業直後の若手作家支援プログラムが始まった。

マーク・ダンヒル : ロンドン芸術大学 セントラル・セント・マーチンズ 学部長

タミコ・オブライエン : シティー&ギルズ ロンドン・アート・スクール学長

London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2015 参加者の声から

今回の体験を通しての印象

自分の日常と違う文化や状況を体験し、スタジオで自身の制作のための新たなアイデアを考え、新しい視点をもたらすための機会に集中する時間と空間を持てた。遊工房という、日常から離れた別の環境にいることから学び、新しい視点で自身の作品を見ることができた。また、東京の学生と対話することができ、滞在中に必要な素晴らしいサポートも与えられたと共に、スタジオ作業に集中できる時間を持ち、個展（オープンスタジオではなく「展示」）をする機会を持てたことが素晴らしかった。（Lydia）

どのように日本人アーティストが作品を制作し、展示をするのか、その違いや理由を聞いて知ることができたことが非常に良かった。また、AIRに参加することとはどういうことかを十分に分らないまま、何でも受け入れようという状況に自分を置いてみて、AIRの良い点は、多様性とその周囲のアートコミュニティへのリンクが密であることだと思った。人々が、どのように仕事を作り、作品を見せているか、単に滞在するだけよりもAIRでは、日本のローカルなアーティストが何をしているかを間近で見ることができた。レジデンスで他のアーティストと滞在できるということは、大きな影響を受けることであり、重要だと思う。プロの芸術家への支援としての長期の滞在はたぶん確立された実践に新しい要素を導入し前進するためにAIRは有効だ。若い芸術家のための短期AIRは、彼らが物事を試してみることと、専門化実践に向けての作業が、彼らが望むものであるかどうかを見極められる機会でもある。

私は非常に忙しい時に遊工房に来たと思う。定例の水曜日の会議は、確認に大変役立ち、通常、私が抱えていたすべての問題は予定や期限が明確で、すぐに解決した。彼らは、意識的に積極的に必要なことを提案し、個人的に制作に興味と支援をしてくれた。一方、出発前にロンドンにいるときには期待される計画や物事を理解するのは困難だった。遊工房の周りのネットワークは非常に良好で、遊工房の周囲には人が集まり、地域と東京の芸術に関わる人々を紹介しようとする意志が感じられた。単に文化の違いかもしれないが、東京を理解するために私の意図や制作について非常に正直でなければならない。ロンドンでは、アーティストが不快であれば切り落とせることも、遊工房では、DMや展示、計画、トークなど、これらの要素をきちんとweb発信するために、いい加減にすることができなかつた。それに立ち向かうことは、ポジティブなことだと思う。AIRでは常に変化があるので、活動日程計画が表された交換プログラム計画はその後の計画進展に役立つはずだ。（Chris）

一方、ロンドン体験からは、ロンドンアーティストの家に滞在出来る事（生活を交換するような面白い体験は、AIRというより、ホームステイでスタジオを借りる感覚に近く、Flatの友人との交流は嬉しかった（小津）など）、滞在アトリエがシェアであった事（現地のコミュニティに入れる、作品の制作過程を見ることができると同時に、スタジオの環境への不満などもあった）、臨時の学生証でCSMの図書館に自由に出入りが出来た事、交換したUK側作家LydiaとChrisのブログ開設はとても良いアイデアであると共に、体験交換した相手の見たものや興味を持つことの共有は大事だった。（東山）また、6週間滞在の調査のみのリサーチ滞在なら意義のあるプログラムであるが、個人制作のための期間として短すぎた（小津）印象であったことや、現地で成果発表の機会なかつたこと、両国の交換滞在プログラムの情報共有がうまくいってなかつた（東山/小津）ことなどの指摘は事務局としても真摯に受け止めたい。但し、ASPの宿泊使用については、例えば、フラットメイトが同意しない場合や、フラットメイトにパートナーがいたりなど、必ずしもロンドン中心部の近くに住めるわけではない。ロンドン体験プログラムの初めての試行は、予備知識、東京芸大とのスケジュール調整、計画的な展覧会など工夫すべき余地は多々あった。（Lydia）

今後への期待など

参加の皆さんから、このプログラムから貴重な経験を持たれたことを聞いたことは、多くの勇気を与えている素晴らしい機会であると確信する。また若手作家の今後の発展機会にアクセスしやすくすることにも役立つと思う。(Lydia) 卒業間もない時期の若手作家の観点から、レジデンスが何を見せたか、異なる文化の中で仕事をする、卒業直後の、この時点で非常に有益であることが実体験を通してわかった。(Chris)

また、相手との相互の交流として、一緒に何か出来ればと思う。今後のアイデアとして相手と交互にネット上で、現地で作った作品アップをしたり、ネット上で一緒に展示したり、多くの方と共有を図り、この交換滞在の機会をもっと知ってもらえる宣伝も必要だ。(東山) 学生が現地の作家のシェアスタジオで、滞在細作をする機会は中々得られない。(東山) このプログラムには中心軸となる組織をもっとオープンにするなど、プログラムの目的や達成についてしっかりアピールすべきだと思う。(小津)

まとめ

今回の交換プログラムの中で、OJUN先生と学生の積極的な関与の機会は素晴らしいことであった。そして、共通の認識のもとで、特にタイトル「リキッド」という非常にオープンなアプローチが、しっかりしたフレームワークとして継続し、コミュニケーションを活性化させるものになればとの意見があった。(Lydia)

また、このプログラムの企画側で、学生作家であることと、卒業後の作家であるASPとの相違の議論があったが、おそらくこの交換の継続のためには非常に重要なポイントになる可能性がある。小さなアーティストラン・スペースのマイクロレジデンスと美術大との関わりは、彼らの卒業後の将来発展の助けになると思う。今回のASP修了生は、この件の組織化をすることに役に立ちたいと感じている作家も現れた。(Chris)

インターン

また、今回のOJUN研からこのプログラムに学生インターンとして関わった学生作家から、彼らの東京・三ノ輪のシェアスタジオへのロンドン作家たちの訪問は、双方に取りとても新鮮なものであった。お互いに制作過程や制作現場を見ることが刺激になったこと、相互に関係を保ちつつ両国のメンバー間で情報を共有しながら備えることができれば、新たな可能性にも期待が持てる。また、活動情報の発信の違いの現実興味深いものがあった。情報発信と共有が十分できていなかったことの反省は今後の改善につなぎ、より強固な関係付け持続可能な交換プログラムの礎でもあると感じた。という前向きなコメントと同時に、事前の準備の時間不足と、自分たちの積極的な働きかけの必要性の反省も聞いた。

最後に、インターンからの一言、「新しく挑戦的なエクスチェンジの一回目に落としこまれるように参加し面白がりつつも自分の身の程を知り、思いがけぬ収穫も当然の反省もあったが、この体験とつながりは次につなげられれば自分たちにとって一過性の異文化体験とは全く別の価値を持ちうると感じた。(赤池龍星)」

参加者の紹介

Y-AIR Exchange Program 2015 参加アーティスト

- リディア・デイヴィス : b.1991, UK, <http://www.lydiadavies.co.uk/>
2013 Central Saint Martins, BA Fine Art, First Class Honors
2016 CSM Associate Studio Program
- クリス・アイフォールド : b.1991, UK, <http://www.chrisifould.co.uk/>
2013 Central Saint Martins, BA Fine Art, First Class Honors
2016 CSM Associate Studio Program
- 東山 詩織 : b.1990, Japan, <http://shiorihigashiyama.tumblr.com/>
2013 Tama Art Univ. BA Fine Art, Distinctive Graduate Award & Ichiro Fukuzawa Prize
2016 Tokyo Univ. of the Arts, MA
- 小津 航 : b.1991, Japan, <http://cargocollective.com/Ozzzz>
2013 Tokyo Univ. of the Arts, BA Fine Art
2014 Y-AIR Internship program at Youkobo Art Space

Y-AIR Exchange Program 2015 サポートインターン

- 赤池 龍星 : b.1990, Japan
2014 Tokyo Univ. of the Arts, BA Fine Art
2015 Y-AIR Internship program at Youkobo Art Space

2015-9-20

Youkobo Art Space

London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2015 Over View

		Tokyo Program	London Program
Venue		Youkobo Art Space, Tokyo	CSM ASP, London
Environments		Located residential area west of Tokyo center Good access by public transportation	Located in the city center
Period		2 phase program from May 1 to July 24, Residency 1 from May 1 to June 12 and Residency 2 from June 12 to July 24 at both Venue. Japanese artists had own program before arriving London.	
Participated Artist and status		-Lydia Davis as Residency 1 Artist, Artist, winner of CSM ASP -Chris Ifould, as Residency 2 Artist Artist, winner of CSM ASP	-Shiori Higashiyama as Residency 1 Artist Artist, graduate student of Geidai -Wataru Ozu as Residency 2 Artist Artist, graduate student of Geidai
Selection Process for Artist		From 8 artists of ASP 2013	From OJUN and his teachers network recommendation
Facilities	Studio	Youkobo AIR, Studio 2 as a private studio with accommodation	CSM ASP Studio, A share studio of an Acme Studios
	Accommodation	Youkobo studio: Available for exhibition space	Share apartments of the exchange artists
	Environments	Exchange other Residency Artist/researcher in the same period Artist/Research of OJUN Lab of Geidai	Exchanges artists of ASP and introduced artists in the same time
Main /Basic Program	Residency Program	Residency Program in Youkobo Studio work in studio, own research activities Open Studio as exhibition in final periods	Studio works in ASP/Acme and own research activities Non Open Studio
Related Program	Special Program	Taro & Alice of OJUN Lab Program -Liquid experimental workshop and shows at Youkobo and related venue -‘One Box and One Piece’ group exhibition at Geidai Ueno Campus and lecture at Geidai	Taking part in the occasional studio visits to the Associate Studio by artists, curators and writers

	Internship	Ryusei Akaike form OJUN Lab as an intern for this program	
	College support	Visiting permission	Temporary ID of CSM, using library, etc.
	Campus Tour	Art Uni Campus in Tokyo, Ueno and Toride of Geidai and Musashino Art Univ.	CSM in London
	Studio Tour	Self Organized Studio ·Minowa Studio, Tokyo ·Biso Kukan Studios, Kokubunji New open ·3331 Studio at Kanda-Nishikicho	
	Others	Tokyo Art Scenes	Acme Project Space, London Art Scenes
Support for residency artists	Staff	Youkobo staff for AIR program and pivot between Geidai	ASP team
		Prof. OJUN with Geidai 7th Lab with an intern to Youkobo	Prof. Graham Ellard
	Budget	Return tickets & lent space of studio and accommodation by Youkobo as the Culture Agency of Japan	Tokyo artists with her/his grant and free studio space and space for live by ASP and their team
Online Archives and PR		Artist: http://lydiadavies-youkobo.tumblr.com/ http://chrisifould-youkobo.tumblr.com/ OJUN Lab: http://tarooralice.tumblr.com/ https://www.facebook.com/profile.php?id=100009304161993&fref=ts Youkobo: http://www.youkobo.co.jp/ https://www.facebook.com/youkoboartspace	Artist: http://shiorihigashiyama.tumblr.com/

London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2015 / CSM and Geidai & Youkobo

as of 2015.07.24

		May					June					July									
		1	4	11	18	25	1	8	15	22	29	1	6	13	20	27					
London/ Tokyo	Y-AIR Exchange	Residency 1, 5/1~6/12, London & Tokyo																			
							Residency 2, 6/12~7/24, London & Tokyo														
Tokyo	Geidai	studio gallery											17---24								
		intern	Ryusei Akaike																		
	Youkobo	studio 2	Lydia Davis					5/6:welcome party					3-7 open studio								
			6/5 opening					Chris Ifould					6/17 welcome party								
		gallery	5/1 - 7/15										17---24								
			7th Lab group show					6/8-15: Sabrina					7/1-4: Shintsubo, 7/8-15: Keya								
			5/28,29 Drawing! Drawing! Drawing 6/5 Workshop w/Nishijima																		
		5/17: Mirel Wagner, Live Concert																			
	residence 2	OJUN Lab. -28										Julia					Louisa				
	studio1& residence1	Jaakko Mattila, FI, three months residency from April										Janhong Chong, Si, one month residency									
	staff						17-28 Exhibition					18,19 opne studio									
							6/19 opening					7/18 opening									
		Makiko to Pilsen, Czeck as research																			
London	ASP	Shiori Higashiyama					Wataru Ozu														
	CSM																				
		Youkobo Residency artists and Researchers during May to July 2015																			
		OJUN 7th Lab inisiat program from 1 May to 24 July,2015																			
		Youkobo Internship during this period, Ryusei as Geidai student to Youkobo/Makiko as Youkobo staff to WBU, Czech																			
		Y-AIR Exchange Program, Residency 1 and Residency 2 in ASP of CSM, London																			
		1	4	11	18	25	1	8	15	22	29	1	6	13	20	27					
		May					June					July									

CSM Associate Studio Programme, London

美術大学での研鑽後、独立したばかりの若手作家への継続活動支援としては、卒業時の優秀者への賞状授与、報奨金、提携校への留学機会などが、一般的なものだろう。ここでは、CSMが実施しているユニークな支援事例を紹介する。

CSMはAssociate Studio Program (ASP)として、2013年から優秀な卒業直後の新人作家8名に2年間シェア利用できる市内スタジオを与え、定期的に批評家やアーティストなどが出入りする環境を設けている。また、卒業後も継続的に大学の図書館が利用できる。2015年には、さらに12人の新人作家に3つのスタジオ提供が開始した。

古今東西同様のことではあるが、都市部でスタジオを確保することは難しく、かつ地価は極めて高い。これまで様々な経験を培ってきたロンドンでの活動を続けたい若手作家にとっては魅力的なプログラムである。この問題の一助を担うのが、市内スタジオ運営並びに公的空間活用のオピニオン・リーダー的な活動をするNPO団体Acme Studios*との連携である。Acme Studiosの持つスタジオをCSMが借り、市価の半額近い金額でASPメンバーに提供しているのだ。作家たちはこの2年間のプログラムを通して、制作を展開すると共に、自身の将来設計を立てながら活動する準備を進められる。

現在Acme Studiosは、市内に新たに計画される公的施設・学生寮などの設計に関わっており、一定のスペースを制作工房として確保し、芸術家のスタジオを準備する動きも始まっている。

*Acme Studios

「Supporting Art & Artists since 1972」をタイトルにロンドンで活動する非営利事業組織。400件以上のスタジオ貸しをベースにアーティスト支援を展開して40年以上の実績がある。地元デベロッパーと共同し、学生寮などの公的な施設ビルへ創作スタジオの併設などを推進し、ロンドンにある大学との連携も積極的に展開。英国人作家他、海外から長期滞在作家のスタジオ提供も海外機関と連携しながら進めている。Acme Studiosのロンドンにおける美術大学との協働事例として、他にもAdrian Carruthers Studio Award、Chelsea Studio Award、Goldsmiths MFA Studio Award、Helen Scott Lidgett Studio Awardなど、優秀賞としての賞金や無償スタジオ提供などがある。

参考

『Studio for Artists, Concepts and Concrete』 Edited by Graham Ellard and Jonathan Harvey 2015. Black Dog publishing, London, UK

『Creating Artists' Workspace』 2015, Greater London Authority, UK

以下が、2カ所で始まった活動の概要である。

• Glassyard : Program 1

London 市内南西部 Stockwell 地区の新設学生寮兼会館の1階にあるスタジオコンプレックス (30 スタジオ) の一部にある、1,300 m²、天井高 3m、自然光、照明、空調、インターネット可、共同の水場・トイレ付。鍵の掛かるシェアスタジオ。8人の自主管理による運用、プログラムには、作家、キュレータ、著述家の定期訪問が含まれる。レンタル料金平均市価の半額 (1週間あたり約 20 ポンド /1 名)

• High Line Building : Program 2

London 市中心に近い Elephant & Castle にある同様の建物の1階にあるスタジオの内、総面積 2,357 m²の3つのスタジオ。12人の新卒若手による自主運営で、支援内容は Program1 と同様。(1週間あたり約 26 ポンド /1 名)

いずれも基本的には2年間の支援で、2つのプログラムのスタート・メンバー切替の時期を1年ずらし、1年間のオーバーラップ期間を設け、学生間で相互の運営ノウハウ (スタジオ運用、批評活動支援、発表機会等) の引継ぎも考慮されている。



Glassyard: Program 1

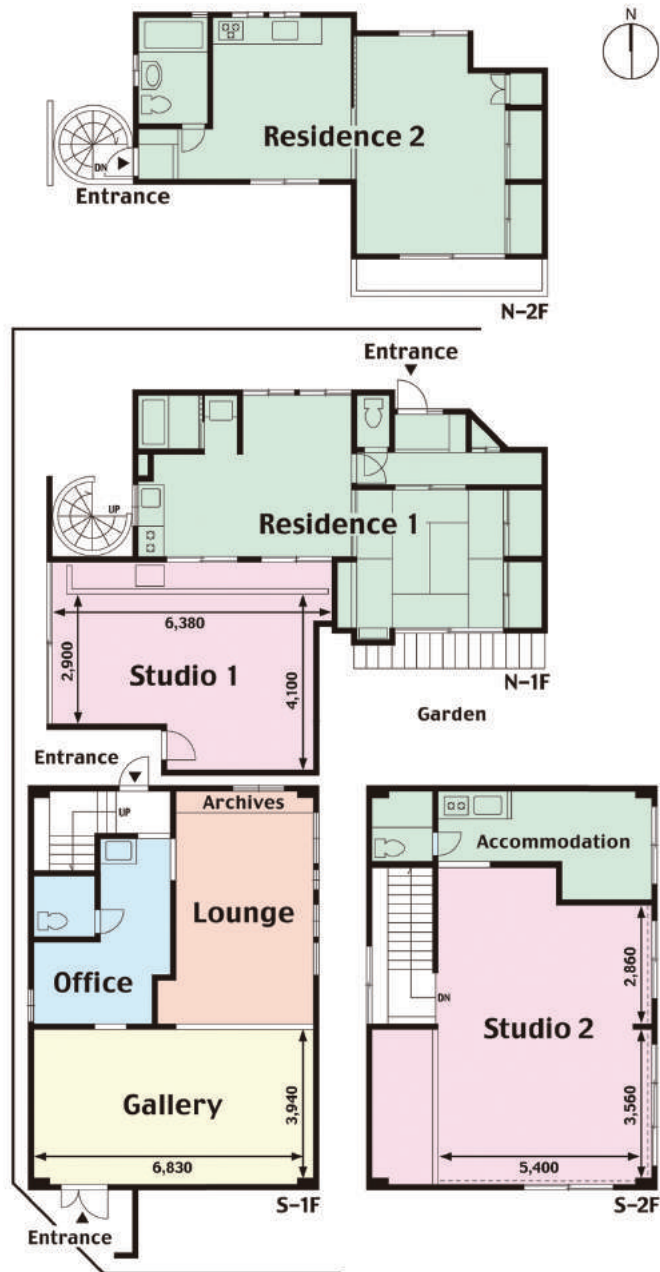


Highline Building: Program 2



美大卒業後のプロへの過渡期にある若手作家への Studio 活動支援は、その他の London にある美大でも Award として、スタジオの年間供与、活動資金授与の形態など工夫して継続している。他、プロ作家向けや、広大なスペースを要する作家向けなど、多様なスタジオ活動支援プログラムがある。

グレアム・エラード：ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校 美術学部教授、リサーチリーダー
ジュリア・ランカスター：Acme Studios レジデンシー&アワードマネージャー



遊工房アートスペースのなりたち

遊工房アートスペースは、1980年代より美術教室、彫刻アトリエ、アニメーションスタジオなど、様々な美術活動の「場(スペース)」となりました。1950年代から80年までは、診療所兼療養所として使われていましたが、時代の変遷と共に姿を変えました。2001年、さらに活動を充実させるため、主に現代美術の発信を目的とするギャラリー、創作スタジオ及び滞在施設を備えたアートの複合施設として生まれ変わりました。グローバルなアーティストとの交流や、地域に根ざした芸術活動の場となり、同時にアーティスト・イン・レジデンスも本格化し、着実に歩みを重ねています。

ギャラリーは、近年では珍しいリベット工法の鉄骨が剥き出しになった高い天井のホワイトキューブの快適な空間で、隣接したラウンジは、交流とアーカイブ資料閲覧のスペースです。また、併設の創作スタジオ及びアーティスト・イン・レジデンスもご利用頂けます。これまでに、20ヶ国200名余りの海外からのアーティストが滞在し、活動を通して新たな経験を積むとともに、200名を超える国内外の若手アーティストを中心とした展覧会が行われています。(2014年3月現在)

東京・杉並区の西北に位置し、近隣には、都立善福寺公園、井草八幡宮、善福寺など、緑豊かな環境が残り、都心までのアクセスも良好です。ご利用など、詳しくはホームページをご覧ください。



〒167-0041 東京都杉並区善福寺3-2-10
Phone: 03-5930-5009 Fax: 03-3399-7549

E-mail: info@youkobo.co.jp

youkobo
ART SPACE

マイクロレジデンス・ネットワークの始まり

マイクロレジデンス提唱者
遊工房アートスペース・共同代表
村田達彦

アーティスト・イン・レジデンス（AIR）とは何か？と問うた時に、ひとくくりでは語れない現状がある。
事業内容、運営主体、規模などが異なる多様な形が在るからだ。

AIR 事業の基本は、生活者としてのアーティストの創作活動の場と機会を提供するものと捉え、
これらの運営体・活動を総称したものを、「マイクロレジデンス」とする提案である。

このウェブサイト、AIR のネットワーク「Microresidence.net」は、マイクロレジデンスの顕在化と相互の活動の促進が図られ、
AIR の存在が、社会的な器となることを期待する有志により始まった。

2012 年秋、東京に参集したマイクロレジデンス・ディレクター（バーチャルな集いも含む）を中心に、
各 AIR 運営者の責任のもとに発信することで準備が始まり、2014 年 1 月運用開始した。

多くのアーティストや関連する方々に認知され、アーティストの創作活動の場と機会となり、アートが社会に不可欠である証として、
AIR 活動が重要な社会装置であることを広く周知させるために、一層多くのマイクロレジデンス機関の参画を期待している。

マイクロレジデンス・ネットワーク
www.microresidence.net

(注) Web 発足にあたり、2012 年の調査への積極的な応答をくださった国内外のマイクロレジデンス、
そして、2012 年秋、東京の遊工房アートスペースで行われたマイクロ・ディレクターズ・トークにご参集くださった皆様に
深く感謝申し上げます。2012 年の集いの活動内容と成果は、下記を参照頂きたい。

http://www.youkobo.co.jp/microresidence/index_en.html

